

2022.3
(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とよ や
富 薬

3号

第44巻
No.392



キバナノクリンザクラ *Primula veris* L.

(サクラソウ科 *Primulaceae*)

生薬 カウスリップ 花は春の開花時に採取し乾燥する。根は秋に採取します。

成分 花に primulacamphor, malvidin, primulaflavonoside、根に primulasaponin, primacrosaponin, priverosaponin B, primverin、primulaverin 等。

効能 花には鎮静、発汗、抗炎症作用があり、不眠症や中風の薬として、また頭痛薬として用いる。根は去痰作用があり気管支炎、咳などに用いられるほか、関節炎の常備としても用いられる。

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



春を告げる花としてヨーロッパの牧草地などで普通に見られる植物です。属学名の*Primula*はラテン語primus（最初）であり、種小名の*veris*は「春の」と訳され、春一番に開花することを示しています。また英名cawslipは牛の唇(caws-lip)とは全く関係なく、古英語cu (cow牛) とslyppe (糞) の合成語でcu-slyppeに由来し、日当たりのよい草原などを好んで生育し、春先に牧草地の至る所に花を咲かせることから付けられた名といわれています。しかし、牛はこの草を食べることはなく、糞と一緒に種をバラまくこともありません。

イギリスの一部の地域ではfairy-cupsとも呼ばれ、妖精の花とされ、釣り鐘型の花は妖精の隠れ家と言い伝えられています。シェイクスピア（1564-1616）の喜劇『夏の夜の夢』に妖精の台詞の中にカウスリップが登場します。

「そして輪がたの草に露を置くため、私は仙女王様（fairy queen）に仕えています。

背高のカウスリップは女王のお小姓。

金地の上着に斑点が見えるでしょう。

あれはご寵愛の御下賜品のルビー玉、その斑点にその香りがやどります。」

また、子供たちの遊びにこの花を50-60輪摘んで糸につないで、それをまるめてcawslip ballを作り、投げ合って遊びます。若い乙女はこのcawslip ballを放り上げて男たちの名前を呼び、地面に落ちる瞬間に言った名前が未来の夫になるという占いもありました。

いくつもの花が下向きにつり下がったように見える咲き方は鍵の束のように見えることから、北欧神話では、美と豊穡の女神フレイヤの所有する宝殿の鍵とされています。また、聖カタリナ修道院の聖ペトロ（初代ローマ教皇64-68）のイコンに鍵を持った姿が描かれています。聖ペトロは天国の正面入り口で鍵を管理していましたが、人間どもが裏口から天国へ侵入しようとしているうわさにびっくりして鍵の束を地上に落としてしまい、その場所から生えた黄色い花（keys of Heaven）がカウスリップであったという伝承からKey-flowerの別名でも呼ばれています。

ヨーロッパ、西南アジア、アフリカ北部原産で、低地からおおよそ標高3000mまでの草原や高原に広く分布する多年草です。地下部は短い根茎と数本の根を持つ植物で、容易に掘り起こすことができます。現在は開発や観賞用や薬用としての過剰採取、除草剤の影響などによりその数を減らしています。根および根茎はサポニンを含み百日咳や気管支炎に、またサリチル酸塩を含むためヨーロッパでは関節炎の治療薬として広く用いられていました。葉はロゼット状の根生葉で、長さ5-8cmの卵形～長楕円形。葉の表面にはしわがあり、葉縁は波状でやや外側に巻き込み、不規則な細かい鋸歯があります。葉柄は太く、翼を持ちます。春早く展開した軟らかそうな葉は野菜としてサラダなどに用い、傷に貼り付けたりもします。3-5月頃、高さ10-20cmの花茎を数本伸ばし、その頂点に強い香りを持つ多数の花序を散形につけます。萼は釣鐘状で5つに浅く裂け、花径2-3cmの黄色い花を数輪横向きにつけ、中心に赤い斑紋があります。花には不眠症や神経の緊張を緩和する作用があり、シロップ剤には麻痺を治す治療薬として、ハーブティーは頭痛薬、花を使った軟膏は日焼け止めに用います。さらにイギリスではカウスリップの砂糖漬け、カウスリップ・クリーム、カウスリップ・プディング、カウスリップ・タルト、カウスリップ・ワインが利用されています。中でもカウスリップ・ワインは花からシロップを作り、それを発酵させて作った飲み物で、各家庭で楽しまれていたようです。（村上守一 記）